# 計画演習I

### -08

## 1. 近畿圏の大学のためのセミナーハウス

開講年次:学部3回生後期

#### [担当教員]

三輪康一(教授)末包伸吾(教授)槻橋修(准教授)

[Teaching Assistant]

小川亜希穂(A63)鎌田悠也(A63)田中健人(A63)

大学内での活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々の活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。

#### ■計画敷地

計画敷地は、神戸市灘区の山麓市街地に位置する灘丸山公園の土地を想定する. 現在の公園用地の全部または一部をセミナーハウス用地として使い、敷地へのアプローチも南側の道路をそのまま利用するものとする.

別紙に示す敷地図を参照のこと.

#### ■建築概要

建築施設の延べ面積は4,000 m²程度とし、階数、構造は自由とする.

#### ■利用者

施設の利用者は主として大学生,大学院生,大学教員であり,15 人単位(10人~20人)が6組宿泊でき,最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする.また,指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること.

#### ■提出図面

A1 の用紙にコンパクトにまとめること.

- ・全体配置図: scale 1/500 (施設へのアクセス, 外構等を含めた外部空間を示すこと)
- ・各階平面図: scale 1/200 (分棟形式であっても, できるだけ同じ図面内にまとめること)

- ・立面図 : scale 1/200 (分棟形式であっても, 全体像が理解できるようにまとめること)
- ・断面図 : scale 1/200 (敷地全体と建物の関係が理解できるようにまとめること)
- ・透視図または模型写真(図面のレイアウトを考慮して貼り付けること) ※図面名称,室名,寸法,学籍番号,氏名などのレタリングは入念に行うこと.
- ・透視図または模型写真

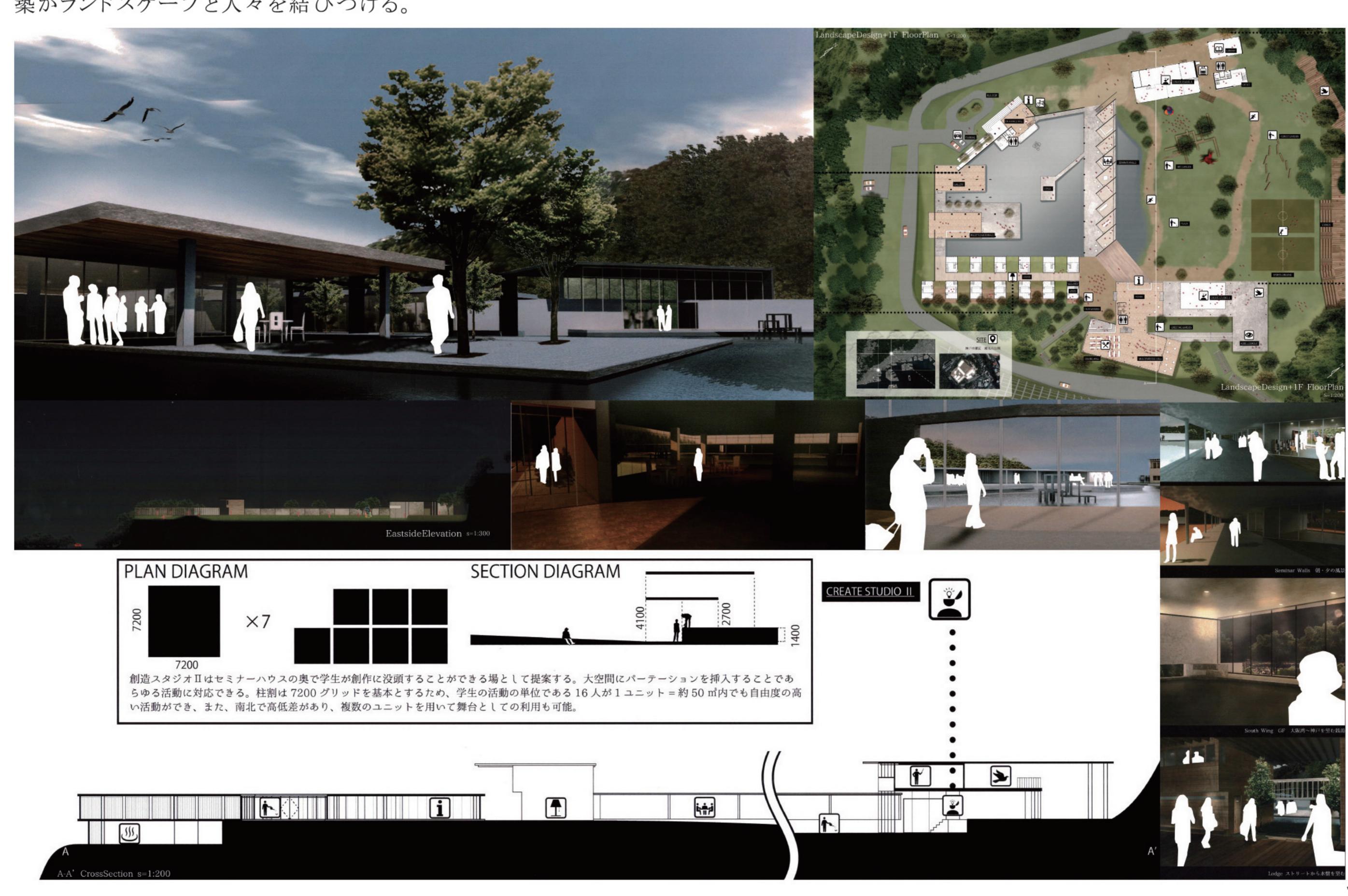




## 揺らぐ風景を繋ぐ

#### 小林諒

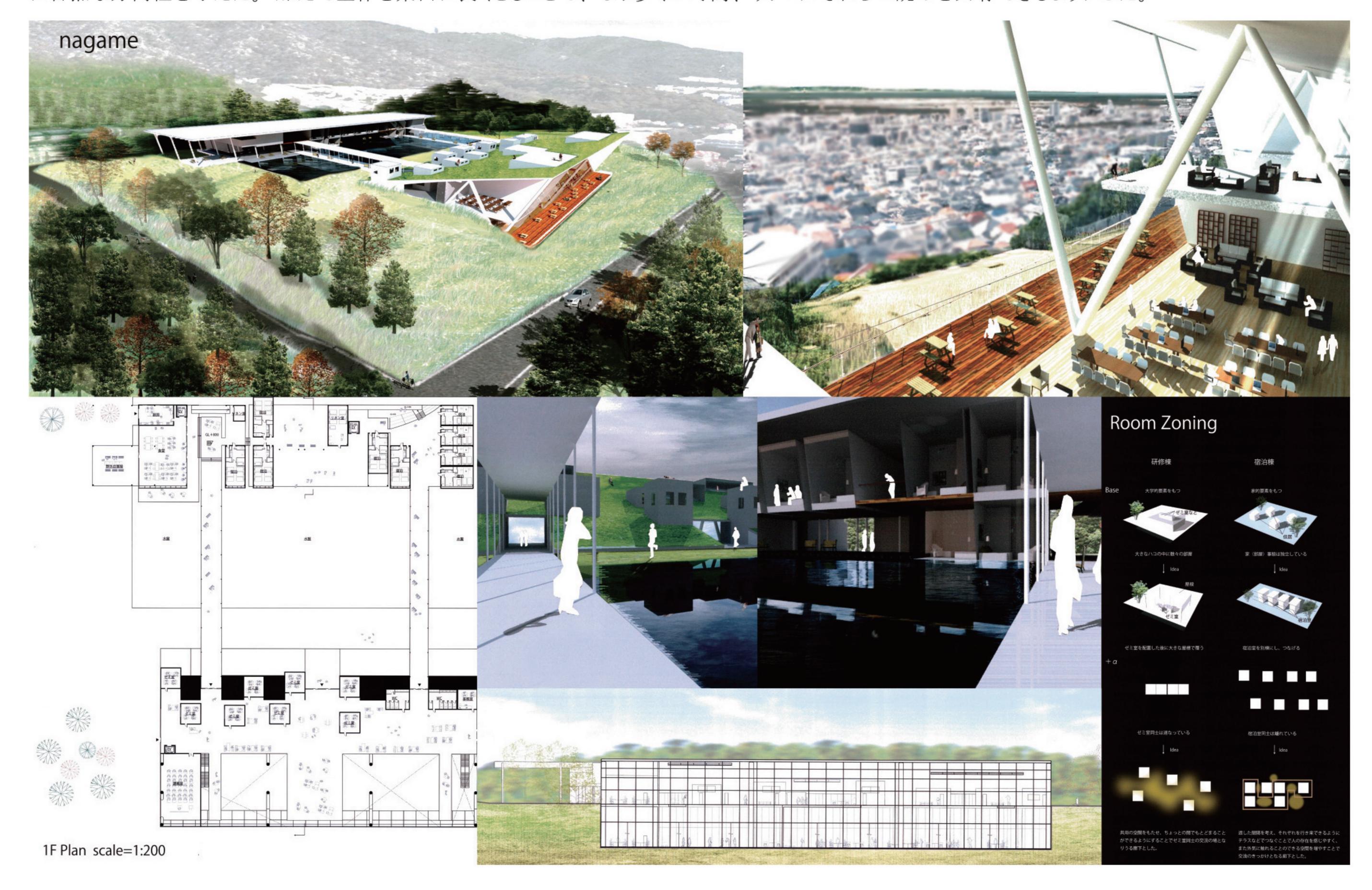
自然を受容するフィルターとしての建築の提案。 敷地中央の斜めの壁の連続や、等高線に沿った配置計画といった操作によって、 建築がランドスケープと人々を結びつける。



## nagame

#### 伊藤大輝

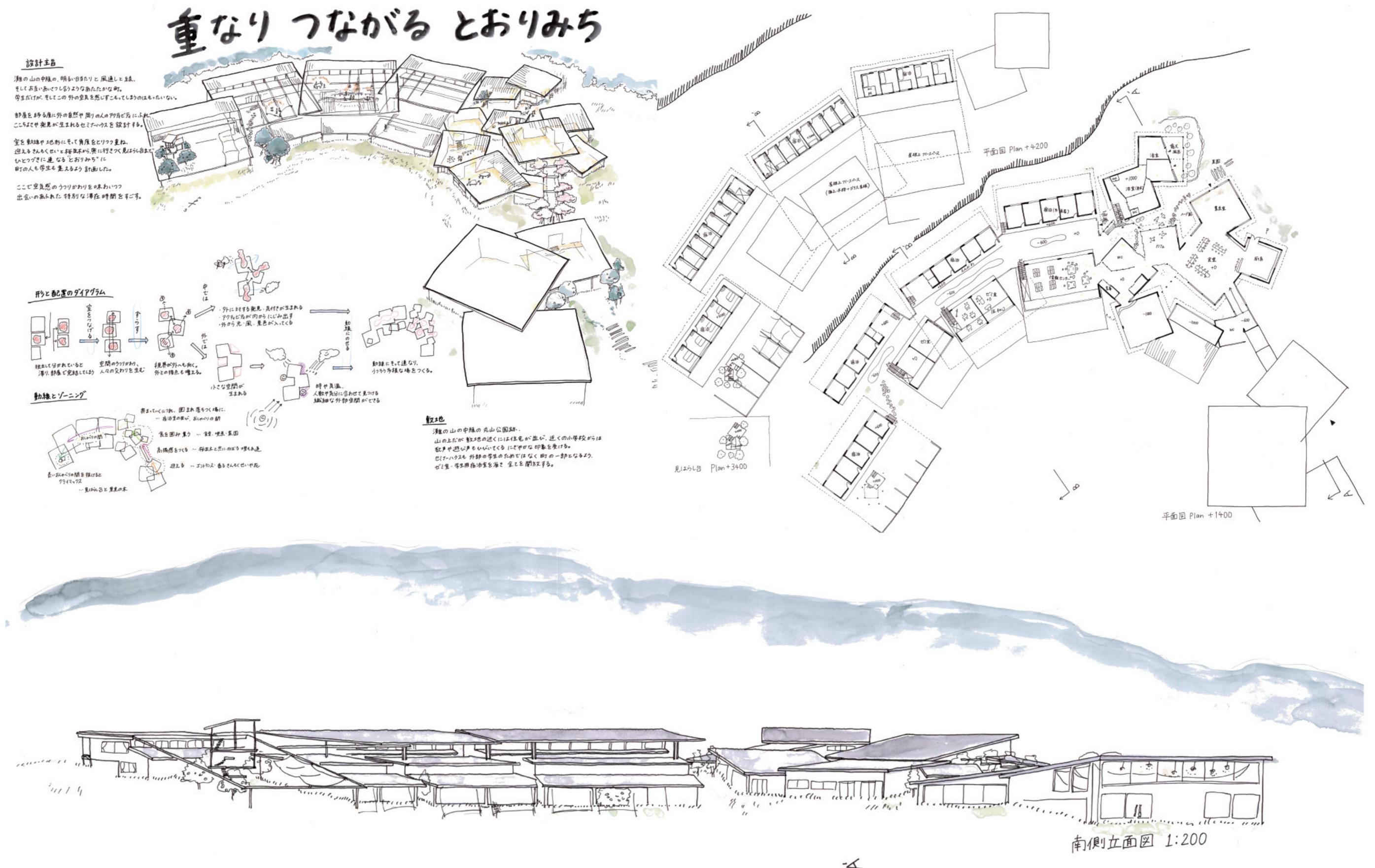
南側に向けた神戸の絶景と北側の澄んだ空への眺めを最大限に期待するために全面ガラスのファサードをもつスタジオを屋上緑化し、利用者の視線 に自然な方向性を与えた。加えて全体を東西に長くとることで、より多くの時間、人々にそれらの眺めを共有できるようにした。



# 重なるつながるとおりみち

### 中川栞里

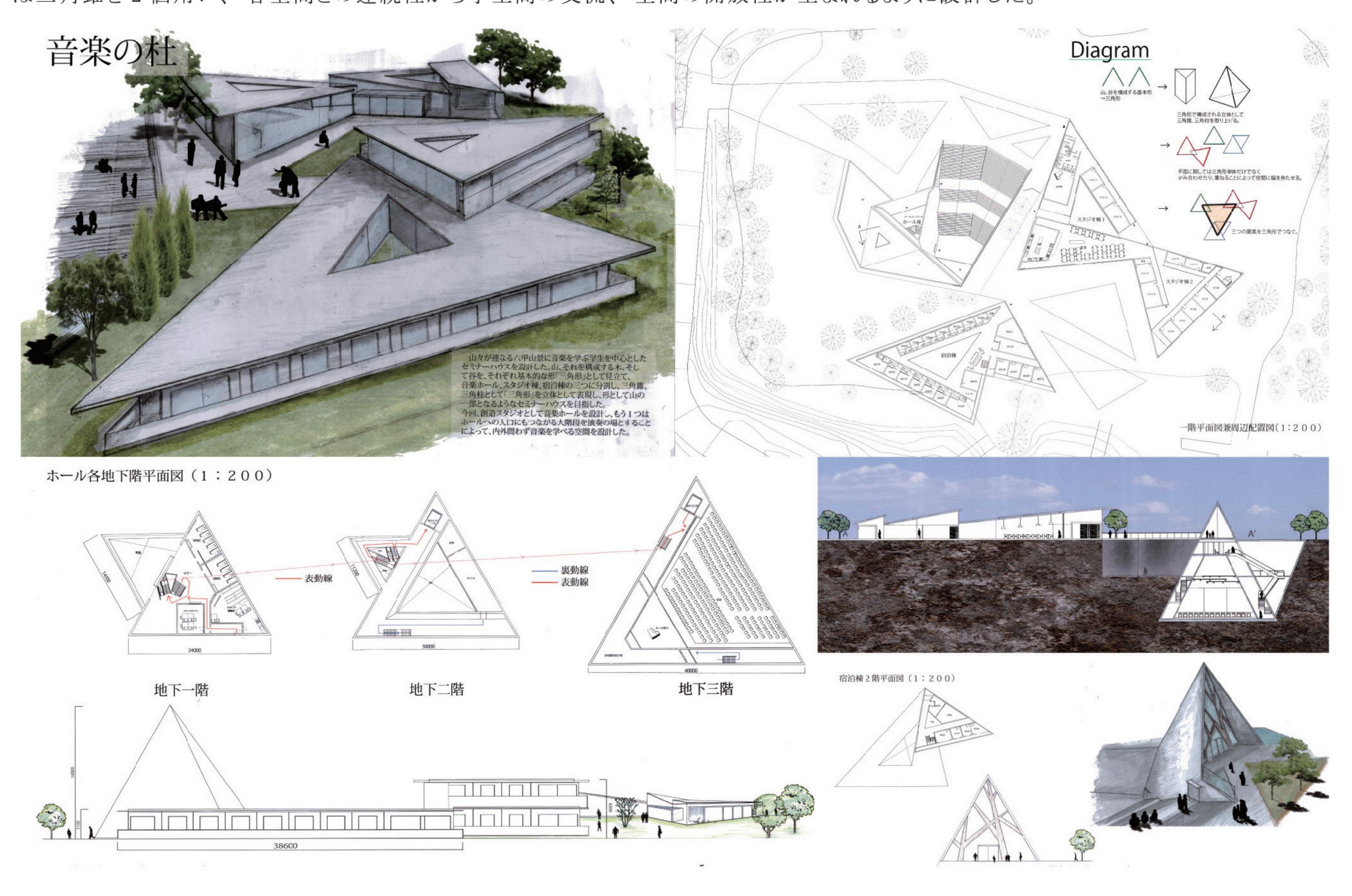
部屋を移る度に外の自然や周りの人のアクティビティにふれ、心地よさや発見が生まれる空間を提案する。動線や地形にそって角度をとりつつ室を重 ね、迎える金木犀、桜並木、奥に行き着く見晴らし台までひとつづきの"とおりみち"に、町の人も学生も集えるように計画した。



# 音楽の杜

### 川添浩輝

音楽を学ぶ学生のためのセミナーハウス。 六甲山系から連想される三角形を用い、それぞれを角度をつけて交差させ、音楽ホールは三角錐を2個用い、各空間との連続性から学生間の交流、空間の開放性が生まれるように設計した。



### **BORDERLESS**

### 斎藤愛

住宅地と山の境界に生物研究、登山研修などに利用するセミナーハウスを提案する。利用者は、チューブ状の通路を山側へと進むに連れて外部の緑が増えるのが見え、さらには分岐、蛇行し、山を感じながら山へと足を踏み入れていく。

